

平成 30 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（1）

第 1 回「森の不思議・楽しさを学ぶ」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 1 回「森の不思議・楽しさを学ぶ」 ガイダンス：「里山カレッジ&実習について」 講義：「森の不思議」 実習：「樹木 100 種の特徴と見分け方」
日 時	平成 30 年 6 月 24 日（日） 10：00～16：00
会 場	千葉県緑化推進拠点施設 研修室
出席者	受講生 38 名（14 市）・講師 4 名・スタッフ 2 名
内 容	10：00～10：30 ガイダンス 里山カレッジ&実習 カレッジ担当理事 伊藤 道男 10：30～12：00 講義：「森の不思議を学ぶ」 講師：森林インストラクター 広島 真知子 13：00～16：00 「樹木 100 種の特徴と見分け方」 講師：森林インストラクター 石松 成子 講師：樹木医 石谷 栄次
報 告	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスで全 5 回の集合場所、タイムスケジュール、内容を確認し、午前中の講義に入った。 ・広島講師は千葉市都市緑化植物園のみどりの相談所で花や植物に関する相談業務に長く携わり、寄せられた相談、園内外の観察会から、森や樹木に関わる事例を紹介した。 ・観察会では樹木に触れられない子どもが増えてきたこと。カブトムシを求めて、立ち木をやたらに蹴り、根元を掘り返す。いるはずのない樹木の根元も掘り返す現象が続いた。カブトムシが集う樹木の種類を特定できないまま、インターネットから得た情報を鵜呑みにした仕業ということが分かった。森の楽しみ方を知らずに育ってしまったのではないかと感じて危機感を覚えた。 ・森の楽しさ、例えば森にいて心地よく感じる事が大切だと思った。木漏れ日の射す森に心地よさを感じる人、杉林に心地よさを感じる人とそれぞれだ。 ・自然界の生態系ピラミッドの一部分を人間は邪魔している。森の一部を住宅など、別の用途に転用し、生態系の一部を壊しているという認識が必要だ。 ・身近にある森に入って、深呼吸して「あなたの森の楽しみ方をあなたの流儀で探してみませんか」と講義を結んだ ・参加者からは森の管理に関する質問がいくつも寄せられ、「それぞれの里山団体が目指す森をまず決めましょう」と回答していた。 ・午後は、森林インストラクター石松成子氏、樹木医石谷栄次氏を講師に迎え、緑化推進拠点施設内の 100 種の樹木を観察した。ケヤキ、ムクノキ、エノキの似た者同士の見分け方や、雌雄異株、同株、羽状複葉などのポイント、ユズリハ、ホルトノキなどのそっくりさんなど盛りだくさんの内容を 2 時間半で終了した。 ・緑化推進拠点施設に生育する樹木は無施肥・無灌水で樹木の成長の経過観察も進めている。 ・里山カレッジの第 1 回目は、森の不思議と樹木の楽しさを学んだ一日であった。

添付資料（写真）



伊藤道男副理事長の挨拶とガイダンス



広嶋真知子講師



受講生の皆さん



午後の石谷栄次講師、石松成子講師



講師の話に注目する受講生



サンゴジュの葉脈が糸を引く



石松成子講師による樹木の説明



葉の見比べ



ケヤキ、エノキ、ムクノキの違いを見る



ハイビャクシンを観察



ソテツの雄花、雌花を観察



石谷栄次講師の観察のまとめ